株式会社タイチ

常に将来の事業環境を考え、SDGsの観点から持続可能な成長への準備を

株式会社タイチ

代表取締役
徳弘 多一郎
専務取締役
徳弘 清子

従業員数
7名

設立
1988年

事業概要
真鯛養殖

サステナブルな世の中を見据えて水産エコラベル認証を取得

2020年からのコロナ流行を契機として社会が変容し、これからは本格的なサステナブルな時代が来ると考えました。さらに、今後の日本では人口減少に歯止めがかからず、市場の縮小も予見されます。こうしたサステナブルな時代の到来、市場縮小を見据えた海外への販路拡大への準備の一環として、水産エコラベル認証を取得しました。

水産エコラベル認証には様々な種類がありますが、認証を取る上でとても難しかったのが、サステナビリティとおいしさの両立です。例えば、認証基準を満たすための飼料を用いると、一方で魚の味やコストへの影響が大きくなってしまうなど、様々な問題がありました。しかし、時代の流れを考えると、これらを両立させないと生き残れないと強く感じ、試行錯誤を繰り返しました。そして、自社にとって最適な認証として、2021年にマリン・エコラベル・ジャパンを取得しました。 認証を取得したことで、外資系ホテルから水産認証の魚として選ばれるなど、効果も実感しています。

SDGsへ積極的に取り組み、発信することがビジネスチャンスにつながる

私たちの拠点は宇和島にあります。宇和島へは、東京から飛行機を使っても半日くらいかかります。そのため、お客さまとつながり続けるためには、積極的な情報発信が必要です。2010年から社長ブログを始め、さらにFacebookやInstagram、Xも活用しながら、費用をかけずに宣伝する方法も探っています。例えばInstagramやXでは、自社の鯛を使ったイベントや毎月実施しているごみ拾い、近隣の高校への出前授業の様子など、事業以外の取組みも発信しています。情報を発信することで、SDGsへの関心が高い方たちともつながれると感じています。

実際に、商品のSDGsへの取組みを発信した結果、若いシェフからの問い合わせがありました。世の中の流れがSDGsに向かう中、今後、大量生産大量消費の時代に戻ることはなく、その中で私たちのような小規模な生産者は、こだわって商品を作ることが生き残る道だと思い取組みを進めています。

経営理念を習慣化して、「同志」として従業員と一緒に会社を良くしていく

経営者仲間とも、私たちの仕事には将来を作るための活動が必要だと話しており、常に早めに準備をしています。新しい取組みを積極的に進めることについて、従業員もよく理解した上で、一緒に取り組んでくれています。

2018年に社名を変更した際、当初の経営理念「縁尋機妙 多逢聖因（良い縁がさらに良い縁を尋ねて発展していく様子や、良い人に交わっていると良い結果に恵まれること）」を従業員にもっと理解してもらうため、分かりやすい言葉にまとめ直しました。さらに、理念を浸透させ、習慣化することが重要と考え、7～8年前からは毎朝理念を唱和してから業務を始めています。唱和を始めるようになってから、社員の意識も高まり、社員から理念に基づいた提案や判断を求められることが増えました。私は、社員とは想いを共有する「同志」のような関係を築き、会社を良くするために一緒に頑張っていきたいと考えています。

常に将来を考えて新事業の準備を進める

私たちは、会社の規模が小さいため、何かを始めるには準備の時間がかかります。そのため、常に先を見据えて準備を進めることを大事にしており、コンサルティングの活用や、日ごろからの情報収集も意識しています。その一環として、廃校を利用した陸上養殖を研究した時期もあり、この取組みが愛媛銀行の目に留まった結果、環境省の『令和2年度ESG地域金融推進事業』に採択され、それがSDGs宣言につながりました。

最近では、特に温暖化の影響で魚の育成にも影響が出始めているため、早めに準備が必要だと危機意識を持っています。また、現在の主力製品はあるものの、ブランドの寿命がおおよそ30年であることも考え、次の世代に渡せる新しい事業についても常に考え続けています。

＼ ここがポイント！ ／

- これからの世の中がどうなるのかを常に考え、認証取得などの取組みを進めている
- サステナビリティに関する取組みを積極的に情報発信してビジネスチャンスにつなげている
- 経営理念を社員に共有・浸透することで、一緒に会社を良くしている

当資料の内容、テキスト、写真、イラスト等の無断転載はご遠慮ください。
帳票番号47588（2025年3月）